

琉球大学学術リポジトリ

家庭管理を考える

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 都代子, Nigaki, Toyoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21196

家庭管理を考える

1. はじめに

昔、ギリシャの国では、「家庭管理の上手な人は、ルビーよりも大事だ」と云われ重宝がられたそうです。又日本では、「悪妻は一生の不作」という諺もございます。さて世界中、どこの国にも家庭があり、家庭があればそれぞれの家庭の管理があるはずで、今回は家庭管理について、みなさまと御一緒に考えてみたいと思います。

家庭管理というのは、言葉をかえていうと、家庭をきりもりすること、又は家庭を運営すること、経営することであり、さて、家庭管理を考える場合、家庭、家族、家庭生活について、正しく把握してなければならぬと思われ、

2. 家庭・家族・家庭生活について

〔1〕定義

家庭とは、夫婦、親子、兄弟、姉妹などの家族が互いに深い愛情と信頼感によって結ばれて、一つの家に住み、生活をともにしている小集団で、社会を構成する基本単位であると定義されている。

家族は、家庭で、喜び、かなしみをともにし、なぐさめあい、はげましあって、人生をより幸福に満足してすごすことができるよう努力している。又、私たちは誰もが家庭に生まれ、家庭に育ち、やがては、自分自身の家庭を造る。家庭をはなれて生活する人は極めて少ない。現代社会では洋の東西、都会、未開地を問わず、ほとんどすべての人達が家庭を造り、家庭生活を営んでいる。

〔2〕家庭生活の重要性

なぜこのようにすべての人たちが家庭生活をしているのでしょうか。

人間はいろいろな欲望をもっている。人間が生存するために必要な衣食住などに対するいわゆる基本的な欲求とともに、知識を得たり、美にあこがれたり、意義ある社会活動をしようとする文化

的欲求をもっていて、これらが充足されると、生き甲斐や幸福を感じる。

人間が生きてゆく生活の方法にはいろいろあるが、これらの欲求、欲望を満足させて幸福な生活をするためには、現在のところ、家庭生活が最も適当であると考えられる。

その理由は、家庭生活が家庭の愛情を中心に、なりたっているからであって、その点が他の集団と異なる点である。すなわち、家族は夫婦という最も親しい間柄の男女を中心に、その血縁として自然的愛情の深い親子などで構成され、それに加えて生活をともにする者の間に生れる親しみの愛情がある。

〔3〕家庭生活のはたらき

A) 愛情を中心とした機能

① 家族に対する社会のはげしい変動を家族相互が愛の力で緩和させようとする**内的安定作用**がある。

② 一家の生活を家庭内で保障しようとする**経済保障性**があって、生活の営みは、家族間で分担され、働けない家族も安心して生活しうる。

③ 病人、老人、子どもなどに対する**献身的な保護性**がある。

④ お互に人生から落後しないようにする**拘束性**を持っている。そして家族はおのおのの生活体であると共に、他の家族のよき生活環境となって家族の生活目標達成につとめている。又家族は、家庭内のすべての家族が幸福に生きてゆく上に互に大切な役目をもっている。

B) 家庭生活のいとなみとしての機能

家庭生活は歴史的な面からみると、生活の手段や方法は、時代によって変遷してきたが、根本はいつの場合でも食寝と育児のための生活共同体である。食寝によって代表されるのは、肉体的な日々の消耗を補うことであるが、同時に愛情を中心

とする家族の慰安、団らん等によって、精神的、肉体的な日々のつかれを回復し、明日に備える。これが家庭生活のいとなみとしての機能となる。

又、育児は、夫婦内に生れた子どもを心身ともにすぐれた成人（情緒的な安定感を持ち、立派な人格形成のもち主）として育てて、次代の荷い手として、社会におくり出すことであり、最も重要な家庭生活のはたらきといえましょう。

これを社会的にとりあげると、家庭の食寝は、社会での物資の生産につかわれた物的、精神的労働力の再生産であり、育児は、次代の労働力の再生産であると解釈されている。

家族の成員が、正しい愛情深い家庭生活をすることによって、家族は、自分自身を高めると共に、社会の進歩発展に寄与することになる。いいかえれば、よき社会は、よき家庭があってこそ、なりたつものであるということができましよう。

〔4〕 家庭の社会的役割

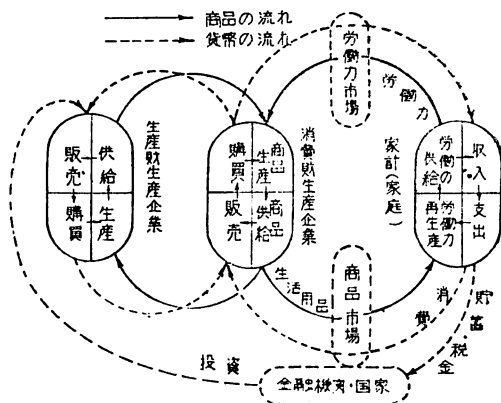
家庭生活はよく社会的存在であるといわれる。けれどもこれまでの家庭生活は、一家の私事であり、社会からきりはなされたものとみられてきたし、今でも、そのような場面が少なくない。

そこで、一体、家庭生活のどのような部分が社会と直接つながっているか、またつながっていないかをはっきり理解しておくことが家庭生活を管理するうえで基本的な前提となる。もちろん広い意味では、家庭という制度が、一定の社会的役割（家族責任主義）を果たしているけれども、このような漠然としたものでなく、家庭の果たす直接的な役割を考えてゆきたい。さて、家庭が社会的な制度として、存在するためには、それが、継続的に、ある一定の社会的役割を果たしていなければならない。また社会的役割を果たしているが故に家庭が社会的存在でもある。

① 社会的存在としての家庭はどのような再生産構造をもっているのでしょうか。

例えば、勤労者の家庭の場合には、必要な生活用品を社会から買わなければならないし、買うためには、社会に対して売るものをもっていなければならない。そして社会は家庭がつくるものを買わなければならないというところに今日の社会の

図1 家庭と企業との関係



仕組がつくられている。勤労者は自分の働く力、すなわち「労働力」を売るのであるが、その代金が収入となる。そしてその収入が必要な生活用品を社会から買うのである。第1図はその関係をわかり易く示したものである。

自給自足の社会では、この生活用品の生産と消費は密接に結合していたが、今日では生活用品の大部分の生産は企業が行っており、このような分業によって交換を通じて家庭生活はその基底において、社会とつながっている。このような関係をぬきにしては家庭生活は考えられないといえましよう。

② 家庭の内部構造はどのようになっているのでしょうか。

さきにものべたように、家庭生活は、収入の獲得と生活用品の購入を通じて、社会ときりはなせない関係にあるが決してそれですべてではない。

もっと多くのものが家庭生活の中にある。そこで、夫、妻、子どもがそれぞれ、夫としての役割、妻としての役割、子どもとしての役割を果たし、一つの統一的な行動単位をなしている普通の家庭を考えてみましょう。まず世帯主である夫の収入を手がかりにしてみると、それは夫のもっている一日の生活時間のうち、収入を得るために家庭外で働いた時間の代償としてである。もちろんこのうちの一部（8時間労働を原則とする）には

違いないが、家庭内での生活時間を含んでないから、さきにもべた社会的な役割はいわば、全生活のうちの社会的側面にすぎなかった。

したがって、家庭生活内部で日々くり返されている側面を仮に、「生活力」と名付けるならば、一日の24時間というものは、量的に同じであっても、質的には、各家庭により各個人により、かなりの差がある。この「生活力」は日々増大されていてこそ、家庭生活の向上、福祉が期待されることになりましょう。では次に「家庭の管理」について考えて参りましょう。

3. 家庭管理について

〔1〕 定 義

① 家庭管理とは、家族のもっている目標を達成するために、家族のもっている資源を最大限に活用しようとする決断の連続である。

② 管理は決断を必要とする選択行為である。

③ 目標は価値により設定され、価値は、私どもの宗教、欲望、人生の目標・野心などにより左右される。

〔2〕 目 標

私どもは生涯を通じて、個人として、又家族としてのある目標を求めている。

A) 家族のもつ最終目標

各家庭を創造し、追求する大きな目標となる。

① 家族成員に最も適した心身の健康

② 家族成員に最も適した個性の発展

③ 家族成員の幸福（満足すべき家庭生活）

④ 家庭の内外において、他の個人、又は集団に対して健全で有益な人となる。

私どもの家庭生活では、家庭内の人間関係のタイプの決定が行なわれ、各個人の生活は他の家族の人たちの生活と互に深く関係づけられていることは前にも述べた通りである。又、各個人の求める価値は、或程度、他の人々の生活の中に反映してくるものである。

B) 長期、短期の目標

目標の多くは、近い将来に達せられる見込みのものや、家族の各個人が求める短期的な目標は数限りなくある。

又、なにか大きな長期の目標達成のための手段としてつかわれ易いのが、短期目標でもある。例えば、7年後に住宅の新築をする。そのために貯えなければならぬ目標金額のために、ある短期的な支出や、家族旅行などの計画や、その他の節約を余儀なくされることもある。なお、子どもの学資金の積立等は物価高や将来の貨幣価値などの検討を加えて慎重に立てるべきでしょう。

そこで現実的な目標実現のために、限られた資源をあらゆる角度から検討し、利用していくことや、努力する全過程が管理である。すなわち、目標を定める過程から目標達成の過程まで考えられる。

〔3〕 決断の過程

「人間の行動の目的は、人間自然の欲求(needs)に根ざし、欲求がある対象に働きかけて、欲望(want, wish)となり、それを行なおうと決意した時に成り立つのである。例えば、食物は要求(needs)であり、食物がほしいと思うのは欲望(want, wish)である。」と塚田氏は述べておられる。家庭管理における決断は、一家の運命を左右するような重大な決断や、又こまごました末梢的な決断などが相互に関係をもちながら、数多くの決断がなされるわけである。

この様な決断の過程の形成は、人間の行動を望むところへ方向づけることであり、逆にいえば、人間の欲望、欲求、目標などを意識的に達成しようとする行為をおこすものでもある。決断することは、決して容易な仕事ではなく、どれ程の思考を必要とするかはわかり知れないものがある。

本来、決断の概念は、非常に抽象的であるが家庭管理のなかで、具体的にどのように取り入れていくかを考える必要がある。次に、決断を正確に早くすると考えられている決断の過程を5つ紹介しましょう。

① 解決しなくてはならない問題をはっきり認識する。

② その問題に対するいくつかの解決策をさがす。

③ それぞれの解決策について、どれが最上の結果をもたらすかを熟慮する。

④ どれか一つの解決策を選択する……(すな

わち決断となる)。

⑤ 選択に対して責任をとり、望ましい結果と満足感を得るように努力する。

その際、決断の過程の第一段階では、解決しなければならない問題や疑問が存在することを知ることにはじまり、又、それを変える必要がある状態を認識することである。また、第二の段階では、たとえ問題を認識しても、そのままほっておけば、決断の過程は進展しないし、選択行為や管理は存在しなくなる。すなわち知覚した状態に変えようとする努力である。いくつかの問題解決策を考えはじめることは、一歩前進した段階にはいり、決断への直接的努力にほかならない。

決断は選ぶことであり、選ぶためには、少なくとも、2つ以上の選ぶ対象をみつけ出さなければならない。

賢明なマネージャーは、もっとあらゆる可能性を考慮して、より独創的な、効果的な解決策のある一定の時間と空間の中で考え出すことができます。

さらに、できるだけ多くの解決策を考えつく人ほど、知力に富み、知識、経験が豊富であるともいえる。又より多くの解決策を考え出すために、

積極的な知識の吸収も重要な課題である。

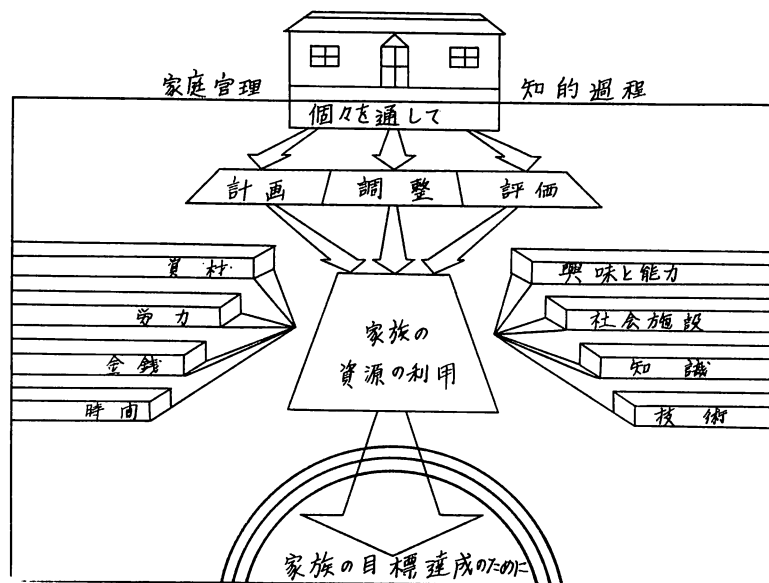
しかしながら決断は、事実、資源、選択、結果を考慮せずに自然になされることもある。たとえば、衝動的な買物をしたり、又習慣からくるなんとも意識しない行動などもある。私どもは管理の立場からもっと意識して決断を行う努力をしたいものである。

そこでこれからの家庭の管理者は、従来のように家事の遂行者および家族の世話役等の役割のみならず、家族の諸資源の活用と一方立派な決断者としての役割も演ずるべきです。では次に家族のもつ資源についてのべましょう。

〔4〕 家族の資源

私どもは、よい家庭生活の営みをするために、家族の関係を円満に保ち、家庭の方針にしたがって、家族のもつ資源を計画的に、総合的に、家族の生活目標達成のために、最も効果的に活用しようとする努力を惜しまないことである。第2図を参照して下さい。

- A) 人的資源… ①時間②労力③知識④技術
⑤能力(興味)⑥奉仕(福祉)
- B) その他の資源 (①金銭②物資③公共施設)



Irma. H. Gross & E.W.
Crandall 著
MANAGEMENT For
Modern Familiesより

P. F. ドラフカーは「現代経営」の中で、「1つのものを2つにも、3つにも拡大して利用することのできる資源は、人的資源—人間能力—のみである。その他の資源はすべて機械的な法則に従っている」とのべております。家庭の経営管理に應用して、問題意識から、問題を問題でなくするアイデアをうみだす訓練を試みましょう。ただし、資源は各個人、各家庭により異なるし、又、時代によっても異なることを考慮しましょう。

[5] 家庭管理の方法

デカルトは「疑うが故に我あり」といったといわれるが、それでは、家庭の管理の方法は、今までの自分のやり方で満足か？又、自分のやり方はいかげんに妥協してはいないか？等と、特に自分に妥協することをきびしく反省してみましょう。

- ① まず疑え、
- ② さらによりよい方法にくらべて今のやり方はこれでよいか。
- ③ では、さらによい方法などがあるのか。
- ④ 今までのやり方は沢山の方法の中から選ばだされた1つなのか、等と考えてみましょう。

家庭管理の過程については、一般に、計画、実行、評価の3段階があげられる。

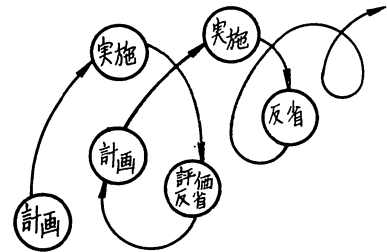
3 Steps (3段階)

}	1. Planning(計画) ↓ Plan	ある目的に到達することのできる方法を予想する。たとえば食事準備の時間、労力、金銭その他の計画など 計画を調整しながら実施する 又は実行する。 a) 仕事にとけこむ→活気をつける。 b) やりはじめたら→最後までやり通す。 c) 自分で決めたこと、又行ったことを調べる→チェック→再チェックする。 d) 調整(調節)する
	2. Controlling(実行) ↓ do	
	3. Evaluation(評価) ↓ see	

自己評価、他人評価(家族、専門家等による)
計画、実施の方法、内容等についての反省、過程や結果の価値を見定めることで、次の活動を向上させるために導くものである。

計画とは、「問題意識にはじまり選択に終る一連の行為で実施のために行なわれる」と定義されている。又問題意識は、疑うことによりはじまり、現状に「不満」をもち、「ああこのままでは大変だと真に思う」ことである。それにより、科学的な管理方法や、知識や情報の蒐集が必要となる。よいプランなら実施はうまくいくはずで。結果を見て、さらによいプランをつくりましょう。次の第3図は、弁証法的展開を要する問題ですが、これらの螺旋運動を應用して、家庭管理の方法を向上させるのに役立てましょう。

第3図螺旋運動による3段階



次に計画の立て方について、いろいろな方法がありますが、そのなかの一例をあげてのべてみたいと思います。

[6] 計画の立て方

- 1) 目的や方法を明らかにする。
 - a) 細かすぎることなく
 - b) 具体的で弾力性のあることが望ましい。
- 2) 関連事実を把握する。
 - a) 現状を調べる(時間、経済状態等)。
 - b) 過去の記録を調べる。
 - c) 関係のある他の例を調べる。
- 3) 具体的な計画を立てるために6つの疑問をはっきりさせる(5W-1Hとも云う)。

① Why ?

- なぜ必要なのか
- なぜ今日するのか
- なぜ人に相談せねばならないのか
- なぜしらべる必要があるのか

② What ?

なにか必要なのか
 なにに使えるか
 なにがさしざわりになりそうか
 なにならさげられそうか
 なにに適用して考えたらよいか

③ Where ?

どこでやるのが1番よいか
 どこにおいたらよいか
 どこで材料を手に入れるか

④ When ?

いつはじめたらよいか
 いつまでに仕上げるか
 いつが1番よいときであるか
 いつ必要なのか
 いつころまでにでき上るか

⑤ Who ?

誰がすれば1番よいか
 誰に協力させたらよいか
 誰が許可すべきか
 誰か他に関係者があるだろうか

⑥ How ?

どのようにやったらよいか
 どのようにして重要性をわからせるか
 どのようにして決めるか
 どのような手順でやるか

以上の⑥つの質問を自分自身にやって、その解答が与えられれば、あなたの計画はスムーズに運ばれることでしょう。又特に⑥のHow toの手段は、家庭管理の上で最も重要な点となりましょう。日常の生活管理のなかで、決断する問題が何であり、何が重要で、沢山のなかで何が一番先か等とよりはっきりして参ります。もっと頭をつかって、実行可能な計画をたててみましょう。

4. おわりに

[1] 家庭管理の焦点3つ

① 意志決定(又は選択)とその実行

意志決定の経済的、非経済的側面を包含すること
 意志決定過程と家族の目標達成に対する効率を高めること

② 価値、目標、規範の検討

管理目的の明確化機能
 管理効率の判定方法を検討すること

③ 資源の活用

人的資源の効率を高める
 その他の資源の効率を高める

[2] 考える生活態度

笠信太郎氏が、「物の見方について」の冒頭に、「イギリス人は歩きながら考える。フランス人は考えた後で走り出す。スペイン人は、走った後で考える」とスペインの外交官、マドリヤーガの言葉を引用している。

私どもが管理しなければならない家庭生活の管理はまず、①考えてから歩き出し、②歩きながら考え、③歩いてしまった後で又考える生活態度でありたいものです。家庭管理の立場から、家庭の方針に向って、自分のもつ能力の最大限を発揮して、時間的にも、空間的にも、最も短距離で、家族の目標達成への努力をしてみませんか。又自分の家ばかりでなく、近所の家庭はもちろん、その地域社会のみんなの家庭が明かるい充実した楽しい生活の営みが続けられますように協力しあいましょう。

今回はふれませんでした、家庭の管理的な仕事のなかには、子供の教育、人間関係の調整、他人との交際、主人や子どもの健康管理、楽しい家庭の雰囲気づくり、より情緒的な安定を与えるための役割等、数えあげればきりがありません。その他にも、室内の装飾、家庭のレクリエーション等、画一的でない分野等が沢山残されております。家庭管理の立場から、主婦(マネージャー)としてほんとうにやり甲斐のある分野ではないでしょうか。家族のみんなの幸福のために、又家族の人間形成のための必身を創造していくために、もっと家庭管理の価値を認識しましょう。

今日の主婦たちはどうでしょうか？

高い教養を身につけ、豊かな生活をしている主婦たちのなかでも、主体性に乏しい生活内容と生活態度で甘んじてはいませんか？

次々に直面する家庭生活の問題をてきばきと処理するため、判断や、決断を比較的容易にできるようになったマネージャーは、きつと、欲求不満などの精神的不安定はなく、明かるい充実した生活を営むことができます。それは、最終的に、家族の幸福を追求する家庭管理者の役割を果たしていることになりましょう。

(にいがき とよこ)